

む親の替へからぬと同じ理なるをや然れど此は非事の中にもやごとなき真心の憐むべきか  
 たも有を今かく學問の道の開たる世にもなほ心おそく漢好する徒ありて丹波氏なる人の私  
 に劉氏を稱ナりなどする人も有と聞ゆるは劉氏を何ばかりの貴姓と思ふらむ高祖劉邦と云る  
 はもと泗上の亭長にて父祖は名もなき賤者なるものをや然るを丹波氏を賜へる事は本の賤  
 しき蕃の汚穢を禊ぎ祓ひ賜ふと云べき身にも餘れる大御惠なるを神と皇との然る恩頼を思  
 はず其先祖に賜へる姓を己が心どうち止ていやしく穢き本國の姓に復るわざにて勅に違ひ  
 先祖の心に背きて名を亂る所爲とこそ所思オモゆれ然る人はさも思はねばこそ痛イタかしこ

〔刊謬正俗〕姓族類

春秋左氏傳曰天子因生以賜姓胙之土而命之氏本國大姓有皇王族臣蕃外國之別而源平藤橘四  
 姓最盛其屬姓支流不可殫計至今彌增或稱地名或稱祖父名或冒外家姓或自造姓紛糾擾雜統紀  
 不明夫姓所以分族也而可乎哉

〔廣益俗說辨九〕百姓といふ説

今按るに略中允恭天皇の御宇諸臣に勅して湯をさぐり神に誓はしめて姓氏をたゞさる其後  
 萬多親王姓氏録を輯られしまでは猶いまだ一千一百八十二氏ありしが世くだり人おとろえ  
 て己が姓氏を取うしなひ源平藤橘の四姓ならではなきやうに覺え我こそ其人の季なりと偽  
 り系圖などを妄作しみづからあざむき他にてらふもの多しとなん

〔玉勝問二〕姓氏の事

今の世には姓ウヂの玄られざる人のみぞおほかるさるはいかなる玄づ山がつといへどもみな古  
 の人の末にてはあるなれば姓のなきはあらざる事なるを中むかしよりしていはゆる苗字  
 をのみよびならへるまゝに下々なるものなどはことごとくしく姓と苗字とをならべてなる